

野依記念学術交流館



野依記念学術交流館は、前号で紹介された野依記念物質科学研究館と同様、野依良治本学特任教授（理化学研究所理事長）のノーベル化学賞受賞を記念して整備された施設です。

国内外の優れた研究者が集う国際シンポジウムや国際研究集会等を開催することができるカンファレンスホールや会議スペース、また、外国人招へい研究者の長期滞在用宿泊施設を備えています。

構造は、鉄骨造、地上4階・地下1階で、延べ床面積は、3,485㎡です。また、建物は、野依記念物質科学研究館の東面から連続するゆるやかなカーブを描くガラスの壁を延長してできた楕円形の平面形状をしており、その外壁は総ガラス張りになっています。

1階にある会議スペースでは、学内外の研究者や学生の情報発信の場として、学術情報データベースによる研究成果情報の受発信やNICE（名古屋大学情報ネットワーク）と接続して電子ジャーナル等を閲覧することができます。国際会議開催時には、分科会・ポスターセッションなど、多目的に利用できるよういくつかの大きさに変更可能な間仕切りを備えています。また、メインエントランスに隣接したホールには、カフェラウンジ（「BINAP - CaFe」）が設けられています。BINAP - CaFeは、野依特任教授の命名によるもので、同教授の研究に由来する



図書コーナー（1階）



カンファレンスホール（2階）

「BINAP（不斉触媒）」からとられたものです。林の中に配置された同館の1階からは2層吹き抜けのガラス越しに林の木立が見られ、気持ちの良い空間となっています。

約200人が収容できるカンファレンスホールは、ガラスの中に浮いたように見える2階部分の白い箱の中にあります。ホールは、講演にも円卓会議にも対応できるように、ステージの前の平らなスペースを広く取ってあります。

3・4階には、外国人招へい研究者の長期滞在を支援し、共同研究を円滑に進めるための安全かつ快適な居住環境を提供できる宿泊施設があり、単身用3戸、夫婦用5戸、家族用2戸の計10戸が設けられています。全ての宿泊室の玄関と居間は、中庭に面しており、さらに、居間の中庭に面する部分のサッシは全面開放し、住人同士の交流が活発に図られるような設計になっています。



中庭（3階・宿泊施設）



東山キャンパス